

教科名	国語科	学 年	1	週時間数	4
使用教科書	「現代の国語1」(三省堂) 「中学書写 一・二・三年」(光村図書)				
副教材等	「学習漢字ノート1」(浜島書店) 「国語の学習1」(明治図書) 「つまづかない文法の学習」(新学社) 「国語便覧」(浜島書店) 「学習の達成」(新学社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○文学作品や説明的文章など様々な文章から、登場人物の思いや作者の心情、物の見方など、必要な情報に着目して要約などを行い、自分の考えを深めることができる。 ○自分の考えや集めた情報を整理し、発表したり文章にまとめた的確に表現したりすることができ、対話の話題や展開を捉えながら、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 ○日本語の文法、漢字等についての知識を広げ、日常生活において正しく活用できる。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を中心に授業を進めます。プリントを用いて、ペア活動を行います。必要に応じて便覧や辞典で意味や語句についての理解を深めます。 ○「漢字学習ノート1」を用いて週1回小テストを行い、基礎学力の定着を図ります。 ○「国語の学習1」を使って予習や内容理解の補充を行います。 ○文法は教科書と「つまづかない文法の学習」を用います。文法事項の定着を図るとともに学習習慣を確立させます。 			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に親しんだり理解したりすることができている。	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり、想像したりする力を養っている。また日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。	○言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値を気づこうとしている。また生活の中で言葉を適切に使おうとしている。
	方法	・漢字テスト ・小テスト(暗唱等) ・定期テスト ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写の知識・技能	・授業における学習態度 ・定期テスト ・作文、感想文、スピーチ等	・漢字テスト ・授業における学習態度 ・ワークやプリントへの取り組み ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写(手紙等)
	学習のポイント	○言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになるよう。	○積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ○便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。	○仲間に尋ねるなど丁寧に関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 ○配布されたプリント等を整理し、復習につとめよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字は何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 ○宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 ○教科書を何度も読み、プリントを見直して基本となる重点ポイントを理解しよう。 ○読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。 		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・詩「朝のリレー」・物語「竜」・説明「ペンギンの防寒着」 「クジラの飲み水」 ・文法「文の成分①」 		
	1学期期末(6月下旬頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・物語「空中ブランコ乗りのキキ」・随筆「字のない葉書」 ・文法「文の成分②」 		
	2学期中間(9月下旬頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・古文「竹取物語」・文法「補助の関係・接続する語句」 		
	2学期期末(11月下旬頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・説明「玄関扉」・記録「『みんなでいるから大丈夫』の怖さ」 ・詩「それだけでいい」・説明「意味と意図」 		
	学 年 末(2月下旬頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・小説「少年の日の思い出」・文法「名詞・代名詞」・故事成語、漢文 ・漢文「故事成語」 		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	詩	<ul style="list-style-type: none"> 表現に着目しながら読み、詩に表れているものの見方や考え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「朝のリレー」
	5	物語	<ul style="list-style-type: none"> 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み登場人物の気持ちの変化をとらえる 	<ul style="list-style-type: none"> 「竜」
	6	説明文	<ul style="list-style-type: none"> 段落と段落の関係に着目しながら、文章の展開をとらえ、内容を読み取る。 読み手にわかりやすく伝えるための、筆者の表現の工夫を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ペンギンの防寒着」 「クジラの飲み水」
	7	物語 書写	<ul style="list-style-type: none"> 場面の展開や登場人物の描かれ方に注意して読む。 点画の種類を確かめ、楷書の漢字の書き方や文字の大きさ、配列などについて理解し、読みやすくかくための楷書を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「空中ブランコ乗りのキキ」 「字のない葉書」 楷書・手紙の書き方
2	9	説明文	<ul style="list-style-type: none"> 論の展開・構成をふまえ、筆者の意見を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「玄関扉」
	10	古文	<ul style="list-style-type: none"> 古文の仮名遣いやリズムに注意して音読みし、古典の世界に触れる。 現代とのつながりを考えて読み、物語の面白さについて自分の意見をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「竹取物語」
	11	文法	<ul style="list-style-type: none"> 文は文節からなり、文節と文節の間には様々な関係があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「補助の関係・接続する語」
	12	詩 書写 古文	<ul style="list-style-type: none"> 表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えをもつ。 行書の特徴について理解し、読みやすく速く書くことができる。 代表的和歌に親しみ和歌のリズムに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「それだけでいい」 書き初め・年賀状 「百人一首」
3	1	情報・図表・記録	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を関連付けて考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『みんなであるから大丈夫』の怖さ
	2	漢文	<ul style="list-style-type: none"> 訓読の仕方に触れ、漢文調のリズムに注意して音読する。 現代にも受け継がれている故事成語の由来について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「故事成語―矛盾」
	3	文法 小説	<ul style="list-style-type: none"> 名詞の種類について正確に分類できる。 情景や行動の描写に表現されている、主人公の心情の変化を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「名詞」「代名詞」 「少年の日の思い出」
		文法 随筆（読書）	<ul style="list-style-type: none"> 過去を回想する構成や語り手の視点を捉え、表現の効果を理解する。 活用のない自立語の品詞について知る。 事実と意見の関係を叙述を持って捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「副詞」「連体詞」等 「この小さな地球の上で」

教科名	社会	学 年	1	週時間数	3
使用教科書	「中学生の地理」(帝国書院) 「新しい社会 歴史」(東京書籍) 「中学校社会科地図」(帝国書院) 「ビジュアル地理Ⅰ・Ⅱ」(とうほう) 「つながる歴史」(浜島書店)				
副教材等	「地理の完全学習1」(正進社) 「歴史の完全学習1」(正進社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の歴史や特色,人々の暮らしと工夫について,仲間と共に学び合うことができる。 ○身に付けた知識や資料を読み取った内容を生かして,世界の諸地域の特色と課題,時代の特色や,社会の課題について考え,理解を深めることができる。 ○史料や資料,地図に書かれている内容を読み取ることができる。また,資料を用いてさまざまな形にまとめたり,読み取った内容を用いて社会的事象を理解したりすることができる。 ○基本的な知識や正しい理解を身に付け,社会生活に生かすことができる。 		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループでの学び合いを行います。自分で考えてもわからない時は仲間に訊き,仲間に訊かれたらわかるまで説明して,支え合いながら課題を探究し,学習内容を理解していきます。 ○ワークシートを使い学習を進めます。 ○社会のしくみや工夫,日本や世界の諸地域の課題と取り組みについて考え,疑問点や学んだことをまとめたり発表したりします。 ○社会的事象への理解を深めるために仲間の意見を聴き,自分の意見と比べながら考えます。 		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○地理にかかわる事象や歴史にかかわる事象を多面的・多角的に考察している。 ○課題の解決に向けて公正に選択・判断したり,思考・判断したことを説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間の考えをよく聴き,自分の考えと比較したり,さらに自分の考えを深めたりしている。 ○学習した内容を身近なところに置き換えて考えたり,解決に向けて考えたりしている。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み
学習のポイント	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の諸地域や各時代の特色を理解しよう。 ○世界の諸地域や各時代の特色を資料から読み取り,調べまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の諸地域の特色や関連を多面的・多角的に考え,判断したりしたことを説明しよう。 ○各時代の特色を,相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考えよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ教科書を読み,疑問を持って授業に参加しよう。 ○復習ノートを用意して学習内容をまとめるなどして,少しずつ復習しよう。 ○社会の出来事に関心を持ち,新聞やテレビでニュースを読んだり観たりしよう。 ○疑問に思ったことを,本やインターネットなどで調べまとめよう。 ○学んだ内容と日常生活を関連づけて考えよう。 	
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)	世界と日本の地域構成～人々の生活と環境	
	1学期期末(6月下旬頃)	世界のさまざまな地域(アジア州・ヨーロッパ州)	
	2学期中間(9月下旬頃)	世界のさまざまな地域(アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州)	
	2学期期末(11月下旬頃)	世界のさまざまな地域(オセアニア州)～古代までの日本	
	学 年 末(2月下旬頃)	古代までの日本～中世の日本	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《地理的分野》 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成を大観し理解する。 地球儀や世界地図を活用できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 緯度と経度，大陸と海洋の分布，主な国々の名称と位置 地球儀と地図の違い、さまざまな図法の特徴 標準時と時差 世界の様々な地域の気候と暮らし 宗教の分布 伝統的な生活と変化 おもな自然地形、暮らしの特徴と気候や地形、歴史的背景とのつながり、現代の課題
	5	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成の特色を，多面的・多角的に考察し，表現する。 世界と日本の地域構成に見られる課題を主体的に追究する。 	
	6	第2章 世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の自然環境，文化や生活，宗教との関わり，日本とのつながりや現代の課題などについて，考察したことをもとに理解する。 	
	7	①アジア州 ②ヨーロッパ州 ③アフリカ州		
	9	④北アメリカ州 ⑤南アメリカ州	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の自然環境，文化や生活，宗教との関わり，日本とのつながりや現代の課題などについて多面的，多角的に考察し，表現する。 	
	10	⑥オセアニア州		
	2	11	《歴史的分野》 第1章 歴史へのとびら ①歴史をとらえる見方・考え方 ②身近な地域の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 時代区分や時代の移り変わりを捉えるための基本的知識を身に付ける。 身近な地域の歴史について、より良い社会の実現を視野に課題を追究する。
12		第2章 古代までの日本 ①世界の古代文明と宗教のおこり ②日本列島の誕生と大陸との交流 ③古代国家の歩みと東アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> 世界の古代文明や宗教のおこりをもとに，世界各地で文明が築かれたことを理解する。 日本において国家が形成されていった過程を，東アジアの文明の影響と関連付けて理解する。 東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文明のおこりと日本の成り立ち 古代文明とイスラム教 日本列島の誕生と縄文文化 弥生文化と邪馬台国 大王の時代 聖徳太子，大化の改新 律令国家の成立 奈良時代，平安時代の政治と人々の暮らし
1		③古代国家の歩みと東アジアの世界	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら，天皇や貴族による政治が行われたことを理解する。 古代までの日本の特色を，世界とのつながりと関連付けて多面的，多角的に考察し，表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平安時代の政治と人々の暮らし
2		第3章 中世の日本 ①武士の政権の確立	<ul style="list-style-type: none"> 武家政権の成立と武家社会の発展，東アジアの動きとの関わり，中世の社会や政治の変化，新しい文化の特色と背景について多面的，多角的に考察し，特色を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 武士の成長と鎌倉幕府の成立 鎌倉時代の文化と宗教 モンゴルの襲来と日本 南北朝の動乱と室町幕府 応仁の乱と戦国大名 室町文化とその広がり
3	3	②ユーラシアの動きと武士の政治の展開 まとめ		

教科名	数学	学 年	1	週時間数	4
使用教科書	「未来へひろがる数学1」 (啓林館)				
副教材等	「数学の問題ノート」 (新学社) 「確認から発展へ」 (学宝社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形などについて基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。また、事象を数学的に表現・処理したりすることができる。 ○数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現することができる。 ○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとすることができる。また、問題解決の過程を振り返って評価・改善することができる。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の定着と理解を深めるために、教科書などの問題に取り組む際、グループ活動など様々な形態を取り入れます。 ○ジャンプのある課題に取り組むことで深い学びを身に付けていきます。 			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察することができる。 ○文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。 ○図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができる。 ○関数関係の特徴を表、式、グラフなどで考察することができる。 ○データの分布の傾向を読み取り批判的に考察して判断し、不確定な事象の起こりやすさについて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとすることができる。 ○問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりすることができる。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・授業中の問題解決の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・授業中の問題解決の様子 ・グループでの活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の様子 ・副教材、ノートの内容 ・グループでの活動の様子
	授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○問題をしっかり解こう。 ○用語や法則を理解しよう。 ○間違えた問題は繰り返し挑戦しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を、数学的な表現を用いて説明しよう。 ○自分の考えを周りに伝えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人の話をよく聴こう。 ○粘り強く学習しよう。 ○わからないところを質問して解決しよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した内容はその日のうちにノートの見直しや、ワーク・プリント等で復習しよう。 ○ワークの解説等を利用し、答えに至るまでの式や理由も考えよう。 		
定期テスト範囲	1 学期中間(5月下旬頃)	正の数・負の数		
	1 学期期末(6月下旬頃)	文字の式、方程式		
	2 学期中間(9月下旬頃)	方程式、変化と対応		
	2 学期期末(11月下旬頃)	変化と対応、平面図形		
	学 年 末(2月下旬頃)	平面図形、空間図形、データの活用		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容			
1	4	正の数・負の数	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数の四則計算ができる。 ・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表し、活用することができる。 ・自然数を素数の積として表すことができる。 ・正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数・負の数 ・正の数・負の数の計算 ・正の数・負の数の利用 			
	5						
	6	文字の式	<ul style="list-style-type: none"> ・一次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則を、文字式を用いて表したり、文字式を読み取ったりすることができる。 ・方程式、比例式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を使った式 ・文字式の計算 ・方程式 			
	7	方程式					
2	9	変化と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式、比例式を具体的な場面で活用することができる。 ・座標の意味を理解することができる。 ・比例、反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。 ・比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式の利用 ・関数 ・比例 ・反比例 ・比例・反比例の利用 			
	10						
	11						
	12				平面図形	<ul style="list-style-type: none"> ・平行移動、対称移動及び回転移動について理解することができる。 ・作図の方法を理解することができる。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直線と図形 ・移動と作図 ・円と扇形
	12				空間図形		
3	1	空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。 ・柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。 ・立体を平面上に表現して、立体の性質を見いだすことができる。 ・ヒストグラムや相対度数の必要性と意味を理解することができる。 ・データを表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体と空間図形 ・立体の体積と表面積 ・ヒストグラムと相対度数 ・データにもとづく確率 			
	2	データの活用					
	3						

教科名	理科	学 年	1	週時間数	3
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス1」(啓林館)				
副教材等	「理科便覧」(浜島書店) 「理科の自主学習」(新学社) 「学習の達成」(新学社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。 ○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習を取り入れて知識の定着と理解を深めていきます。必要に応じてビデオ等も見ます。 ○身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けます。 ○身近な自然現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見い出して表現します。また、探究の過程を振り返ります。 ○観察・実験はグループで行います。実験後にレポートを完成して、提出します。 ○定期テスト・小テスト等を行います。 			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけた力	<ul style="list-style-type: none"> ○物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象から問題を見出している。 ○見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析することができる。 ○分析したことを解釈し、表現するなど科学的に探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり見通しをもって振り返ることができる。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや小テスト ・実技テスト ・観察実験の様子 ・授業での発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや小テスト ・観察実験レポートの内容 ・授業での発言内容 ・授業プリントの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験への取り組み方 ・授業での発言内容 ・自主学習の取り組み
学習のポイント	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ○目的や意図を考えながら、観察実験を行おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日ごろから疑問を持つことを大事にして追究していこう。 ○観察実験で得られた結果から、どのような特徴や規則性があるのか多方向から考え、分析してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の内容だけでとどまることなく、「もっと知りたい」「なぜ？」を大事にし、自ら調べて知識を増やしていこう。 ○仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○普段からテレビなどで放送される科学的な事象についてのニュースなどに目を向けて、授業で学習した科学的概念とのつながりを意識しよう。 ○学習した内容は、教科書やワークシートをじっくり見返して、理解と定着を図ろう。 ○授業で習った部分のワークを日々進めていくことで、理解を深めよう。 		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)	自然の中にあふれる生命 植物の特徴と分類		
	1学期期末(6月下旬頃)	動物の特徴と分類 光による現象		
	2学期中間(9月下旬頃)	音による現象 力による現象 いろいろな物質		
	2学期期末(11月下旬頃)	気体とその性質 水溶液の性質 物質のすがたとその変化		
	学 年 末(2月下旬頃)	身近な大地 ゆれる大地 火をふく大地 (語る大地は次年度へ)		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容		
1	4	自然の中にあふれる生命	<ul style="list-style-type: none"> ・人の生活と環境との関わりを調べる活動を理解し、調査などに関する技能を身につける。 ・生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を身につける。 ・身近な生物についての観察、実験を通して、生物の調べ方の基礎を身につけるとともに、生物の体のつくりと、はたらきを理解し生物の種類やその生活について認識を深める。 ・身近な物理現象についての観察、実験を通して光や音の規則性、力のはたらきや表し方を理解するとともに、これらの事象を日常生活と関連づけて科学的な見方や考え方を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花のつくり ・子葉、葉、根のつくり ・種子をつくらない植物 ・植物の分類 ・動物の体のつくりと生活 ・背骨のある動物 ・背骨のない動物 ・動物の分類 		
	5	いろいろな生物とその共通点 植物の特徴と分類 動物の特徴と分類				
	6	光・音・力による現象 光による現象				
	7	音による現象				
	9	力による現象			<ul style="list-style-type: none"> ・力、質量、重さの関係を理解し、力を図示し、力の関係を調べ、その特徴を身につける。 ・身の回りの物質についての観察、実験を通して、固体や液体・気体の性質、物質の状態変化について理解する。 ・気体の発生法や補集法を気体の性質から理解する。 ・水溶液の定義、濃度、溶解度を理解する。 ・水溶液から溶質をとりだす方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力の大きさのはかり方 ・重さと質量 ・力の表し方 ・2つの力がはたらくとき
	10	身のまわりの物質 いろいろな物質とその性質				
	11	いろいろな気体とその性質 水溶液の性質				
2	12	物質のすがたとその変化	<ul style="list-style-type: none"> ・地震活動、火山活動を地球内部のはたらきと関連づけてとらえる。 ・地層が過去の自然環境と変動を知る手がかりになることを理解する。 ・地層や地形からと現在の現象を関連づける考え方を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の区別 ・重さ・体積と物質の区別 ・気体の区別 ・身のまわりのものから発生した気体の区別 ・物質のとけ方 ・濃さの表し方 ・溶質の取り出し方 ・物質のすがたの変化 ・状態変化と温度 ・混合物の分け方 		
3	1	身近な大地				
	2	ゆれる大地				
	3	火をふく大地				
	3	語る大地				
			<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大地の変化 ・地域の大地の観察 ・ゆれの発生と伝わり方 ・ゆれの大きさ ・日本列島の地震 ・火山の噴火 ・マグマの性質と火山 ・マグマからできた岩石 ・日本列島の火山 ・地層のでき方 ・地層の岩石 ・地層・化石と大地の歴史 ・大地の恵みと災害 			

教科名	音楽	学 年	1	週時間数	1. 3
使用教科書	「中学生の音楽1」(教育芸術社) 「中学生の器楽」(教育芸術社)				
副教材等	「音楽のハーモニー」(正進社)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○楽曲の美しさを感じ取りながら曲想と音楽の構造などとの関わりを捉えて理解し、表現や鑑賞に生かすことができる。 ○音や音楽の雰囲気を感じたり自分なりに評価したりしてよさを味わい、どのように音楽表現するかについて知識や技能を生かしながら、思いや意図をもつことができる。 ○様々な体験を通して音楽に対する興味・関心を養い、生活をより明るく豊かにしていく態度を身につけることができる。 		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な音楽に興味・関心をもてるよう、幅広いジャンルの曲を扱います。 ○グループ活動を取り入れ、みんなで助け合い、工夫し合いながら学びを深めます。 ○年間を通して歌唱・鑑賞・器楽・創作の授業を行い、器楽ではアルトリコーダーを使用します。 		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ○音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験している。 ○音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・実技テスト ・副教材、ワークシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動への取り組み方 ・副教材、ワークシートの内容 ・実技テスト
学習のポイント	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○普段から話をしっかり聴き、音楽の記号や用語を覚えて表現に生かそう。 ○それぞれの曲の時代背景や音楽の仕組みを覚えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱や器楽では、曲にあった表現を工夫しながら堂々と演奏できるようにしよう。 ○音楽を心で聴き、よさや美しさを感じ取れるよう常に意識しよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○普段からテレビなどで流れているクラシック、ポップスや伝統音楽など、様々な音楽を聴くことを心がけ、授業で学習する曲とのつながりを見つけよう。 ○実技は、頭の理解だけでは難しいので、時間や場所を考えて練習しよう。 	
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬)		
	1学期期末(6月下旬)	1学期に学習した内容	
	2学期中間(9月下旬)		
	2学期期末(11月下旬)	2学期に学習した内容	
	学 年 末(2月下旬)	1年間で学習した内容	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・校歌	・校歌の曲想や歌詞の意味を感じ取る。音楽の学習への意欲・態度を身につける。	・校歌（鼓中友情の歌）
	5	・歌声づくり	・恥ずかしがらずに歌う。周りの音を聴き合う。	・朝の風に
	6	・弦楽合奏の鑑賞	・弦楽合奏の響きを味わい、当時の音楽形態の様子を知る。	・「四季」より春
	7	・合唱コンクールに向けて	・自分のパートの音を正確にとる。	・合唱コンクールの課題曲，自由曲選曲
2	9	・合唱コンクールに向けて	・周りのパートの音を聴きながら歌い，クラスで1つのものを創り上げる達成感を味わう。	・合唱コンクールの課題曲，自由曲（文化祭まで）
	10	・鑑賞	・旋律の動きや歌手の声から曲の情景描写を感じ取る。	・魔王
	11	・器楽	・アルトリコーダーに親しみ，息づかいに気をつけて演奏する。	・喜びの歌
	12	・鑑賞	・様々な楽器の音色や名前を知る。	・日本の民謡 ・アジアの諸民族の音楽
3	1	・日本の名曲	・曲想にあった強弱表現を身につける。	・浜辺の歌
	2	・創作	・リズムや音をつないで曲を創る努力をすることができる。楽譜に対する知識や教養を深める。	・自作曲
	3			

教科名	美術	学 年	1	週時間数	1.3
使用教科書	「美術1」(光村図書)				
副教材等	「美術資料」(秀学社) 「レタリング字典」(秀学社)				

教科	<p>○対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる</p> <p>○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができる。</p> <p>○楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を養い、心豊かな生活を創造していく態度を養うことができる。</p>			
授業	<p>○作品制作を通して、見通しをつけながら作業に取り組むようにします。</p> <p>○基本的な技術を身につけ、制作に応用できるようにします。</p> <p>○作品の制作の他、知識や技能を幅広く身につけられるようにします。</p> <p>○感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現の良さ、美しさを感じ取ることができるようにします。</p> <p>○表現方法の異なる作品を鑑賞することにより、いろいろな表現方法に気づき、深めることができるようになります。</p>			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
学 評	つ け たい 力	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ○意図に応じて表現方法を工夫して表している。	○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	○美術の創造的な活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	方 法	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート	・各活動への取り組み方 ・アイデアスケッチやワークシートの内容
	授 業	○対象をよく観察し、ものを見る目を養い、考える力をつけよう。 ○様々な表現方法に挑戦し、技能を身につけ自己の表現につながるよう、自分なりに工夫しよう。	○美術作品や友達の作品のよさや美しさを感じ取ろう。 ○表現の意図や機能性など、美術の働きや社会の中の美術を考えよう。 ○アイデアや感じたことを書き留め制作の基礎をつくろう。	○どの分野にも意欲的に取り組もう。 ○仲間の考えや意見を尊重し、認め合いながら美術への感性を高めていこう。
	家 庭	<p>○制作に必要な準備物を考えて用意し、完成までの見通しをもって家庭でも自主的に制作しよう。</p> <p>○芸術や美術に興味を持ち、美術館等に足を運び、展覧会などを鑑賞しよう。</p> <p>○日頃より様々な分野の表現活動に興味を持ち、作品につなげていこう。</p>		
定期	1学期中間(5月下旬頃)			
	1学期期末(6月下旬頃)	1学期で学習した内容		
	2学期中間(9月下旬頃)			
	2学期期末(11月下旬頃)	2学期で学習した内容		
	学 年 末(2月下旬頃)	1年間で学習した内容		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・オリエンテーション 《デザイン分野》 ・レタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の学習目的を考える。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら最後まで作品を完成させることができる。 ・レタリングに興味を持つことができる。 ・レタリングの基本的な描き方をマスターし、手本を参考にして細部まで丁寧に描く事ができる。 ・明朝体やゴシック体の特徴を理解し、バランスよく描くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明朝体とゴシック体 ・デザイン構成の基礎
	5	《絵画分野》 ・デッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、特徴や形をとらえることができる。 ・画描における形や明暗の表し方、意図に応じた道具の使い方などの基礎的技能を応用させ、制作に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆デッサン ・スリッパのデッサン ・鉛筆のグラデーション ・光の当たり方や影のでき方を学ぶ ・立体の描き方
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な立体形のとらえ方がわかり、形、明暗を工夫し立体的に表現することができる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色についての基本 ・筆の使い方 ・平塗
	7	《絵画分野》 ・ポスターカラーの使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターカラーの使い方を学び、基本的な色を作ることができる。 ・ポスターカラーを使いグラデーションや平塗をすることができる。 ・ポスターカラーの特徴を理解し、いかすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デカルコマニー ・ドリッピング ・フロッタージュ ・コラージュ
		・鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名画を鑑賞
	9	《デザイン分野》 ・様々な表現方法	<ul style="list-style-type: none"> ・デカルコマニーやドリッピングなどの表現方法について学び、技術を取得できる。 ・画材の違いによる、イメージや印象の違いを楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デカルコマニー ・ドリッピング ・フロッタージュ ・コラージュ
	10	《デザイン分野》 ・コラージュ	<ul style="list-style-type: none"> ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら丁寧に制作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品の鑑賞
2	11		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや身近な人の作品を鑑賞することで、作品の良さや美しさを感じるとともに、表現方法の工夫や様々な技法の用い方を発見し、お互いの良さを味わう。 	
	12	・鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名画を鑑賞
	1	《デザイン分野》 ・平面構成	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン用具や基本的な混色の仕方を習得し、自分の表現に活かすことができる。 ・テーマに基づき自分なりに考え、自由に発想することができる。 ・グラデーションなどさまざまなテクニックを効果的に使い、独創的な作品づくりができる。 ・アイデアスケッチに基づき、着色の仕方を工夫することができる。 ・制作に集中して取り組み、最後まで根気よく仕上げようと努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平塗 ・平面構成
3	2		<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名画を鑑賞
	3	・鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名画を鑑賞

教科名	保健体育	学 年	1	週時間数	3
使用教科書	中学校保健体育（学研）				
副教材等	中学体育実技（学研） 学習の達成（新学社）				

教科の目標	<p>○運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○運動についての自己課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>○運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p>			
授業の進め方	<p>○毎時間準備運動をしながら、体力づくりと怪我の予防をしていきます。</p> <p>○各種目の基本的な動作や技術の練習をして、技能の向上を図り、記録を測りながら、自己の課題の達成度を測ります。</p> <p>○グループ活動を積極的に取り入れ、自分たちで課題発見・解決できるような環境をつくります。</p> <p>○準備や片付けなど互いに協力してできるようにします。</p>			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<p>○各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について考えを理解している。</p> <p>○各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>○運動を豊かにするための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた組み合わせを工夫している。</p> <p>○自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>○運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもっている。</p> <p>○健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。</p>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・技能テスト ・習熟度テスト ・ワークシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操への取り組み ・技能テスト ・グループ活動での言動 ・ワークシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み方 ・授業での準備・片付け ・グループ活動での参加 ・ワークシートの取り組み
	学習のポイント	<p>○自己の課題解決に向けて、考えたり、それを実践したり表現していこう。</p> <p>○知識を技能に結びつけよう。</p>	<p>○自己の課題に向けて、積極的に取り組むとともに、グループや仲間に思いを発信していこう。</p>	<p>○準備や片付けなども含め、グループ活動には積極的に参加しよう。</p> <p>○健康・安全に留意し行動できるようにしよう。</p>
	家庭	<p>○日頃の健康管理に努めよう。</p> <p>○プリントの内容を理解し覚えよう。</p> <p>○中学体育実技や保健体育の教科書を読み、学習を深めよう。</p>		
定期テスト範囲	1 学期中間(5月下旬頃)			
	1 学期期末(6月下旬頃)	ラジオ体操・集団行動・陸上競技・器械運動・健康な生活と病気の予防		
	2 学期中間(9月下旬頃)			
	2 学期期末(11月下旬頃)	球技・武道・心身の機能発達と心の健康		
	学 年 末(2月下旬頃)	1年間で学習した全範囲		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	体づくり運動 体育に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> 自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体力を高めたりすることができるようにする。 自己の生活の中での生かし方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操第1 集団行動 体力を高める運動 体ほぐし・体力を高める運動の意義 新体力テスト
	5	陸上競技Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 仲間同士で協力しあい技能向上の楽しさや喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 走種目 (短距離走、リレー)
	6	健康な生活と病気の予防	<ul style="list-style-type: none"> 自らの健康について考え、生活習慣病について理解を深める。飲酒・喫煙の害を理解し、それらの社会への悪影響を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病とその予防
	7	球技Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるように技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール
2	9	器械運動	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、作戦を立てながらゲームを進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> マット運動
	10	心身の機能発達	<ul style="list-style-type: none"> 体の各器官はどのように発育・発達するか理解する。 思春期の体の変化を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の機能発達 生殖に関わる機能の成熟
	11	球技Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題解決に取り組んだり、記録の向上や喜びや競争の楽しさを味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> バレーボール
	12	武道	<ul style="list-style-type: none"> 技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 剣道
3	1	陸上競技Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題解決に取り組んだり、記録の向上や喜びや競争の楽しさを味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 持久走
	1	球技Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力を把握し、用具の操作と positioning に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> バドミントン
	2	心の健康	<ul style="list-style-type: none"> 心と脳の関係、知的機能・情意機能の発達の仕方について理解する。 社会性の発達の仕方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神機能の発達と自己形成 欲求やストレスへの対処と心の健康
	3	ダンス	<ul style="list-style-type: none"> みんなで踊る楽しさや喜びを味わい、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ダンス
		球技Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> 自己の技能を向上させ、自己の役割を把握し、互いに協力し合い、安全に留意しながらゲームを進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> サッカー

教科名	技術	学 年	1	週時間数	1
使用教科書	「New 技術・家庭 技術分野」(教育図書)				
副教材等	なし				

教科の目標	○実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成する。		
授業の進め方	○プリントを中心に教科書なども活用しながら学習を進めます。学習形態は4人程度のグループで進めていきますので、わからないことや困ったことはまずはグループで相談し解決を目指しましょう。ただし作業の場面では安全面を考え、わからないことや自信がないことは先生に確認しましょう。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけたい力	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	方法	・知識については主に定期テストをもってその定着を確認し、評価します。技能については技能テストや作業の確認などを、主に授業中に行い評価します。	・プリントや定期テストで確認し、評価します。
学習のポイント	授業	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。
	家庭	○学習内容を実生活で生かし、より豊かな生活を創造しましょう。	
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬)		
	1学期期末(6月下旬)	「情報の技術」と「材料と加工の技術」において学習した内容	
	2学期中間(9月下旬)		
	2学期期末(11月下旬)	「材料と加工の技術」において学習した内容	
	学 年 末(2月下旬)	「材料と加工の技術」と「情報の技術」において学習した内容	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	〈情報の技術〉	〈情報の技術〉 ・各自のタブレット端末の基本的な操作方法を理解し、他の教科でも活用できるようになります。	〈情報の技術〉 ・コンピュータの使い方を身につけよう
	5	〈材料と加工の技術〉	〈材料と加工の技術〉 ・材料を利用したものづくりにかかわる内容について学習します。 ・製作に使う工具の種類や目的、安全に使う方法を学習します。	〈材料と加工の技術〉 ・材料の技術と加工の技術を見つけよう ・材料の特性を調べよう ・問題を解決する工夫を考えよう ・実習の安全な進め方を知ろう ・設計のしかたを知ろう ・図や表を読み取ろう
	6			・設計にそった製作をしよう（けがき）
	7			
2	9			・設計にそった製作をしよう（切断・部品加工・組み立て・仕上げ）
	10			
	11			
	12			
3	1	〈情報の技術〉	・材料と加工の技術のこれからの未来における役割や影響、誠実な生かし方を考えます	・社会の発展と材料と加工の技術
	2		〈情報の技術〉 ・情報通信ネットワークにかかわる様々な技術を理解し、モラルを守って安全に活用することができるようになります。 ・プログラムの製作を通し、プログラミングの基礎を学びます。	〈情報の技術〉 ・情報を処理する技術を見つけよう ・コンピュータが情報を処理する仕組みを知ろう ・情報通信ネットワークの仕組みを知ろう ・情報セキュリティと情報モラルを知ろう ・情報の技術の工夫と利用を考えよう
	3		・1年間の学習をふり返り、次年度や実生活に生かす態度を養います。	・1年間の学習で学んだことをまとめよう

教科名	家庭	学 年	1	週時間数	1
使用教科書	New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する (教育図書)				
副教材等					

教科の目標	<p>○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解をし、それらに関わる技能を身につけることができる。</p> <p>○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うことができる。</p> <p>○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協同し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につけることができる。</p>			
授業の進め方	<p>○より良い生活をしていくために、生活に必要な知識や技術を理解し、実際の生活の中で色々な課題を解決する方法を学びます。</p> <p>○実習は班で協力して進めます。その過程で工夫し、創造する能力や物を作る技術を習得します。レポートにまとめるので期日までの提出があります。</p> <p>○家庭科プリント(ファイル)提出や宿題があります。自分で調べたりしながら完成させ、期限を守って提出しましょう。</p>			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つけたい力	<p>○家庭の基本的な機能及び家庭について理解している。</p> <p>○生活に必要な衣食住について理解し技能を身に付けている。</p>	<p>○生活課題について他の生活事象と関連付け、多角的に捉え、解決策を考えることができる。</p> <p>○実習や観察、調査、交流活動の結果等について、考察し、論理的に表現することができる。</p> <p>○他者の意見との相違点や共通点から、計画・実践について評価・改善することができる。</p>	<p>○地域の人々と関わり、協働しようとする態度を養っている。</p> <p>○生活を楽しみ、豊かさを味わい生活をよりよくしようとする態度を養っている。</p> <p>○日本の生活文化を継承しようとする態度を養っている。</p> <p>○将来の家庭生活や職業との関わりを考え学習に取り組むことができる。</p>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 実習・課題の取り組み方 作品 ワークシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> 各活動への取り組み方 ワークシートの内容 実習・課題の取り組み方 作品 	<ul style="list-style-type: none"> 各活動への取り組み方 ワークシートの内容 実習・課題の取り組み方 作品
学習のポイント	授業	<p>○普段から話をしっかり聴き、生活に必要な知識を覚え、技能を身に付けよう。</p>	<p>○生活課題について、学習した知識や技能を利用し解決できるように考えよう。</p>	<p>○どの分野にも意欲的に取り組もう。</p> <p>○仲間の考えを尊重しあい、学習に取り組もう。</p>
	家庭	<p>○学習した内容を生活の中に取り入れよう。</p> <p>○実習の前は、手順などをしっかり確認してこよう。</p> <p>○生活に関するテレビの特集や新聞・雑誌を見よう。</p> <p>○レシピ集を積極的に取り組み、提出しよう。</p>		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)			
	1学期期末(6月下旬頃)	健康と食生活 何をどれだけ食べたらよいか		
	2学期中間(9月下旬頃)			
	2学期期末(11月下旬頃)	私たちの食生活 調理と食文化		
	学 年 末(2月下旬頃)	1年間で学習した全範囲		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容			
1	4	<ul style="list-style-type: none"> 健康と食生活 何をどれだけ食べたらいいか 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 食事の役割を考えよう 健康に良い食習慣について考えよう 栄養素の種類と働きを知ろう 中学生に必要な栄養の特徴を知ろう 食品に含まれる栄養素を調べよう 1日に必要な食品の種類や概量を知ろう 1日分の献立を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割 健康に良い食習慣 生活習慣病・朝食 栄養素の種類と働き 中学生に必要な栄養素 食品と栄養素 6つの食品群 食品群別摂取量のめやす 中学生の1日分の献立 			
	5						
	6						
	7						
	9				<ul style="list-style-type: none"> 私たちの食生活 調理と食文化 	<ul style="list-style-type: none"> お弁当づくりのポイントを知ろう お弁当の献立作成をしよう 調理の基礎を知ろう 食品を適切に選択しよう 簡単な日常食の調理ができるようになるろう 	<ul style="list-style-type: none"> お弁当のポイント お弁当の献立 調理器具の使い方 野菜料理 魚料理 郷土料理
	10						
	11						
2	12	<ul style="list-style-type: none"> 生活を豊かにする製作 	<ul style="list-style-type: none"> 布を使って作ってみよう 	<ul style="list-style-type: none"> 布を使った作品の製作 <ul style="list-style-type: none"> 待ち針 並縫い 布を使った作品の製作 <ul style="list-style-type: none"> 待ち針 並縫い 			
1							
3	1	<ul style="list-style-type: none"> 生活を豊かにする製作 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な手入れと補修の技能を身に付けよう 	<ul style="list-style-type: none"> しつけ 半返し縫い 本返し縫い ボタン付け 			
	2						
	3						

教科名	英語	学 年	1	週時間数	4
使用教科書	「NEW HORIZON English Course 1」 (東京書籍)				
副教材等	「NEW HORIZON English Course 学習ノート1 前期」 (東京書籍) 「Phonics Penman」 (浜島書店)、「ニュー・エンジョイワーク」 (教育同人社) 「テストっち」 (日図協)				

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。 ○日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。 ○関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 ○関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて話すことができる。 ○関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○日常のあいさつや、簡単な会話を毎回授業の中に取り入れます。英語の基礎となるアルファベットをしっかり書く練習を行います。音読を用いた活動を繰り返し取り入れ、単語や表現の定着を図ります。 ○授業は教科書だけでなく、ペアワークなど様々な授業形態・方法を取り入れ、仲間同士の学び合い学習を進めます。 ○ALTを交えた授業を定期的に行います。 ○定期テスト以外にも小テストを行います。 			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	つきたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の特徴や決まりに関する事柄を理解している。(知識) ○「話すこと」、「書くこと」において、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりする技能を身に付けている。(技能) ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝えあったりしようとしている。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えようとしている。
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ○単元テスト ○小テスト ○定期テスト ○各種パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における学習態度 ○単元テスト ○小テスト ○定期テスト ○各種パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における学習態度 ○各種パフォーマンステスト
	授業	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「読むこと」において、必要な単語や文法事項を覚えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況を意識して、表現したり伝えあったりすることを大切にしよう。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等の必要な情報や概要、要点などを捉えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」、「書くこと」において、場面や状況を意識して、表現したり伝えあったりすることを大切にしよう。 ○「聞くこと」、「読むこと」において、話されたり書かれたりする文章等の必要な情報や概要、要点などを捉えよう。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートを使って、単語や基本文を声に出しながら、何度も発音しながら書いて覚えよう。 ○ワーク、プリント、単語練習など、出された宿題を忘れずに取り組もう。 ○単語テストや定期テストに向けて、コツコツと勉強に取り組もう。 ○映画や音楽など普段から英語に関心を持ち、英語に触れる機会を増やそう。 		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)	Unit 0, 学び方コーナー①, Unit 1, Unit 2,		
	1学期期末(6月下旬頃)	Grammar for Communication 1, 学び方コーナー②, Unit 3, Unit 4 Grammar for Communication 2, Grammar for Communication 3		
	2学期中間(9月下旬頃)	Unit 5, Stage Activity 1, Unit 6, Let's Talk 1, 学び方コーナー③ Grammar for Communication 4		
	2学期期末(11月下旬頃)	Unit 7, Let's Talk 2, Let's Listen 1, Grammar for Communication 5 Unit 8, Let's Write 1, 学び方コーナー④, Grammar for Communication 6		
	学 年 末(2月下旬頃)	Unit 9, Let's Talk 3, Let's Listen 2, Stage Activity 2, Let's Read 1 Unit 10, Let's Write 2, Unit 11, Let's Talk 4, Let's Write 2		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	Unit 0 Unit 1 Unit 2	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で習った表現を使ったり、単語を読んだり書き写したりすることができる。 自分がふだんよくすることや、できることを伝えることができる。 身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の表現・英語の音と文字 be動詞・一般動詞の肯定文 be動詞・一般動詞の肯定文 canの文 疑問詞を使った疑問文 単語のつづりと発音①
	5	Grammar for Communication 1 Unit 3 Grammar for Communication 2	<ul style="list-style-type: none"> いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> I want to
	6	Unit 4 Grammar for Communication 3 Unit 5	<ul style="list-style-type: none"> 相手に指示したり、時刻や好きなものをたずねたりすることができる。 行った場所や、そこで楽しんだことなどについて話すことができる。 自分の好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 命令文 前置詞 like ~ing / enjoy ~ing
	7	Stage Activity 1		
	9	Small Talk! 1 Unit 6 Let's Talk 1 Grammar for Communication 4 Unit 7 Let's Talk 2 Let's Listen 1	<ul style="list-style-type: none"> 自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。 身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。 自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものかをたずねたりすることができる。 相手の体調についてたずねたり、自分の体の不調について説明したりすることができる。 人に関する紹介を聞いて、基本情報やその人がどのような人かを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三人称単数現在形 (肯定文・否定文・疑問文) Can I ~? / Can you ~? 人称代名詞 (目的格) What's wrong? I have 人称代名詞
	10	Let's Write 1 Grammar for Communication 5 Unit 8 Let's Talk 3 Let's Listen 2	<ul style="list-style-type: none"> 今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。 目的に合わせたカードを書くことができる。 したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。 徒歩での道順をたずねたり、教えたりすることができる。 友達にあとで伝えるべき情報を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在進行形 (肯定文・疑問文) 感嘆文 want [try, needなど] to look + 形容詞 I'm looking for — Go along this street. Turn left at 助動詞
	11	Let's Read 1 Stage Activity 2 Let's Read 1	<ul style="list-style-type: none"> 好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。 図や表などの情報を参考に、書き手の考えを読み取ることができる。 	
3	1	Small Talk! 2 Unit 10 Let's Write 2 Unit 11 Let's Talk 4 Let's Listen 3 Grammar for Communication 7 Stage Activity 3 Let's Read 2	<ul style="list-style-type: none"> 過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。 旅先からの絵はがきを書くことができる。 過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明することができる。 レストランなどで、注文をしたり質問に答えたりすることができる。 休暇の思い出など日常的な話を聞いて、主要内容を聞き取ることができる。 思い出に残った学校行事について発表することができる。 物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の過去形 (肯定文・否定文・疑問文) 規則変化動詞の過去形 不規則変化動詞の過去形 There is [are] 過去進行形 be動詞の過去形 What would you like? — I'd like Would you like ...? — Yes, please. [No, thank you.]